

# 平成 28 年度 研究成果報告書

## Research Achievement Report FY2016

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジアⅡ 准教授
氏名 Name	村上 忠良
専門分野 Academic Field	文化人類学・タイ地域研究

主たる研究テーマ Principal Research Subject	宗教実践における声と文字—仏教文書文化からみたシャンの在家朗誦
--	---------------------------------

本研究では、仏教文書の崇拝、奉納、朗誦、書写、保存、継承といった宗教実践を「仏教文書文化」と捉え、その事例研究として、シャン語・シャン文字で書かれた仏教文書の朗誦を研究対象として取り上げ考察を行った。伝統的に朗誦と拝聴によって人々に享受されてきたシャンの仏教文書は、記述された内容を読者個人が黙読を通して受容し、鑑賞するという近代文学の書物とは異なり、声を媒介としたテキストの享受（共有）が特徴である。

今年度は、タイ国北部の泰緬国境地域におけるシャンの在家女性信徒によるシャン語版「タンマチャッキヤー朗誦」（初転法輪経朗誦）についてのデータを収集した。特に、朗誦者のライフヒストリー、朗誦の機会、テキストの文体・内容・押韻、朗誦儀礼の式次第についてデータを得ることができた。

シャン語版「タンマチャッキヤー朗誦」は、パーリ語の初転法輪経（*Dhammacakkappawattana-sutta*）のシャン語訳が中心となる朗誦用のテキストで、これに加えて、「五戒請願句」「諸天善神招来句」「仏法僧礼賛句」などのシャン語誦句も朗誦され、朗誦自体が一つの仏教儀礼としての構造を持つ。ミャンマーでも「初転法輪経」の朗誦は行われているが、「初転法輪経」の部分はパーリ語のまま朗誦されている。一方シャン語版の 1970 年代にミャンマーのシャン州内のシャン人僧侶によって執筆されたものであり、シャンの在家信徒、特に女性信徒によって朗誦されてきた。

タイ国北部の泰緬国境地域においては、2010 年ごろからミャンマーのシャン州から移住してきたシャンの人々によって朗誦されるようになり、現在に至っている。仏陀が悟りを開いた後の最初の説法であり、仏教の基本教義が説かれている經典のシャン語翻訳であるので、在家信徒が朗誦を聴いてその内容を理解できるという点で、仏教教義の伝承・伝達にとって大変重要な役割を果たしている。朗誦者に対しての聞き取りより、タイ国生まれのシャン系住民がシャン文字知識を学ぶ機会が減少し、シャン文字知識の継承が難しくなっていく中で、シャン州からの移民によって担われる仏教儀礼となっていることが明らかとなった。